

萩都二美

~ 5
5790



門 5
號 5790
卷



題辭



一白三三三十七

字網羅萬象

納生中庵時

定化堂佳圃
漱頌度人唯
此翁

松崎法老人



松崎法中

釋りとは人出争う月の崎

春海

うろろふ秋のそとにぬ松

景城

亦是のそとに節白の鞍置え

海

春をそとに節白の鞍置え

城

三休のうろろ糸糸よ引うろり

海

路り—あままのらんち和の堂

城

けりしをうらむ 傳へた玉振の結ぶ
 ゆらうらう 入るるを 海もさあ
 波のそよぬ 吹浦の節もよみ
 夏の中 ありや 見えをえさうか
 晴る雲もまはし くるる 風もさ
 西なる けりゆのさくく 葉のた
 りき 振をさあさうのさう けりし
 落るるをうらむ せんさめ 三ツ四ツ
 海 海 海 海 海 海 海

けりしをうらむ 葉のけりしをうらむ
 月影のさゆき 初日の結
 まるるをうらむ くるる けりし
 けりしをうらむ くるる けりし
 白のあかりもさや 葉のそよ
 けりしをうらむ くるる けりし
 けりしをうらむ くるる けりし
 けりしをうらむ くるる けりし
 けりしをうらむ くるる けりし
 海 海 海 海 海 海 海

故の詔多中へりしあし
権子の詔へりしあし
伊豆の山へりしあし
伊豆の山へりしあし
伊豆の山へりしあし
伊豆の山へりしあし
伊豆の山へりしあし
伊豆の山へりしあし

城 城 城 城 城 城 城 城

次り代のとくぬまとせう
五日のうらみ十日の
あつたもあつたあつた
あつたもあつたあつた
あつたもあつたあつた
あつたもあつたあつた
あつたもあつたあつた
あつたもあつたあつた

城 城 城 城 城 城 城 城

山崎の... 志を... 月も... の... 龍... の... 法... の... 龍... の... 妻... の...
海 海 海 海 海 海 海

只ひ... 海... の... 龍... の... 甲... の... 秋... の... 屋... の... 露... の... 砂... の...
海 海 海 海 海 海 海 海

順くく 既掛る 秋津む
 龍波の形くく あり川を縁
 栢葉の竹筍も 出まむし
 吸くくく 帰去の中
 波入の意くく 以て 旅舞竹
 相沖 舞入の 言の ことごとく
 只の ことと 屋崎の 跡を 走らす
 星も 平文くく ちのき 輝

水 勢 急く 埒の みの 色 吹く
 鐘 摩の 意を せん 一方 書
 秋 風も あり 小 舟 ぬ け 片 たり
 龍 波も あり あり の 活 斗
 月 しく あり 小 舟 の 影 も 通 せん
 竹 葉も あり あり の 玉 ぞ の 凸
 栢 の 葉も あり あり あり あり
 た せん こと あり あり あり あり

ユイマ 元作

名々

スギハク

海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海

あふとせぬ女流のまうまう
夏と直をとりしうたのり
水地帯の波の中にもあきくた
籠りしうたをとりしうた
あつたあつたあつたあつたあつた
人のあつたあつたあつたあつたあつた

その川末の杉山残り多り
稲の穂浪しひくく青雲
試みの端も花の鳥うさ
白きし路し矢の黒もく
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

最後一橋の福ふも福さあり
世のまゝもまゝ新橋く
橋木の石の橋と種名も
橋を数へしむまふまきか
あゝくうの宮の月夜のあつた
るう一風やらまの鐘をきく
橋りもら河の橋くまきおあり
橋の舞のひくくとむ

江 海 江 海 江 海 江 海 江

高瀬言ふ

そのを数へ人ま新もあ
まゝあをまゝまの舞の時
ままままままのままま
うまもあぬ貝の空の空
把るり海ままあままま
人ままま 橋ま かくれ 家
亦る殿の世もまのまま
福まのままのまま

江 海 江 海 江 海 江 海 江

くわくわくの音もあはきみうら
る秋の掬籠のほしあけぬ
まじりともありひまけぬ
あふまの音はあはきみうら
まじりともありひまけぬ
あふまの音はあはきみうら
あふまの音はあはきみうら
あふまの音はあはきみうら

くわくわくの音もあはきみうら
る秋の掬籠のほしあけぬ
まじりともありひまけぬ
あふまの音はあはきみうら
まじりともありひまけぬ
あふまの音はあはきみうら
あふまの音はあはきみうら
あふまの音はあはきみうら

コブタ

鴨の海へおとのみづをるの月 春海
 天を晴る海へ午の光 春海
 夕のぬれを小橋へ 春海
 松籠の屋の隅も春へ 春海
 蝶のたをさるる春へ 春海
 春の海へ 春海

131

出たの物ね 龍波をるる所 春海
 友へ 春をさるる春へ 春海
 糸竹の世を引を親へ 春海
 春へ 春をさるる春へ 春海
 松の木の隅も春へ 春海
 春へ 春をさるる春へ 春海
 春の海へ 春海

口アサジ
一向宗の
新系

心を解すむら散りあのをん
 時のまきのまきまきまきまき
 経のつらきまきまきまきまき
 暮陰のまきまきまきまき
 一端越え定る橋あはれ
 晴るまきまきまきまき
 水都のまきまきまきまき
 阿のまきまきまきまき

海 華 海 華 海 華 海 華 海

ウナイコ
けろこ

暮まきまきまきまきまき
 散りまきまきまきまきまき
 かまきまきのまきまきまきまき
 殊にまきまきまきまきまき
 暮まきまきまきまきまき
 五宿まきまきまきまきまき
 夕まきまきのまきまきまきまき
 小務屋まきのまきまきまきまき

海 華 海 華 海 華 海 華 海

新巻の裏くくもく並
死あゝ音の松原の初く
多水の身も年さうまき
あゝ人くく種く新く色さ
昔をき前く秋くをわく
伸くく一肉のくけく一掃杖
海 年 海 年 海 年

ニタナモル
白きくく夜ハあゝくく菓の部
新巻の裏のくくお月くけ
あはれ書役くく裕の袴きく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
酒くく 縁をくくくく井のあ
海 年 海 年 海 年

モカリ 律を干す

る能くまふ神居の内布

鳥

かろくきおろき坂のまろく色

海

かろくくのもろく怖く福あう

鳥

とりまろくろく陰徳の海象

海

月ひる吹砂さめくろくく

鳥

ちろくのもろくまろくく身成枯

海

支障の屋のやろくまろく引と

鳥

掃く人跡ふ 実方の埃

海

ジ子ゴホノ実

ツカ

ホワカ

放らゆの世寄るれくく時ろく

鳥

むくくの蝶の暇くまろくく

海

能あひ枝も葉も涙もあまき

鳥

まろくまろくまろくまろくあまの

海

くやくくとまろくまろくの燕あま

鳥

母の驚き紙張くはの枝

鳥

ゆるき枝く中をろくくろくろく

海

まろくくひあの書信もれく

鳥

柳はらうの京の
立門の名

うねうねとる柳津うねうねのあまう
る月のおちやうきくちやう
初うねうね世子うねうねうねう
かううとねあうああ一枚
京内ふとるうねうねうねう
秋をうねうねうねうねう
古酒の月うねうねうねう
山も終るうねうねうねう

干又
海御
君朝に

岸外も種屋の神もうねう
望みうねうねの不景う
さうねううねうの鏡の通う
うねうのうねうねうねう
名もうねうねうねうねう
柳もうねうねうの静う

海御
君朝に

白山屋やまうー昔とあー
古人の夕をうみひあを

枝岩うー松屋通ふ多きうー那 一 止
そのうー跡多 忠告 のゆき 春 海
飯あうーあーうーとを耕ー
毛あうーと 志多うーるのうーひや
三二友房をのーうーとを答の月
うーやーとをすを海う 林の 海 止

望告能うー松を移あまーいー
下程の管すううーのあ 遠 海 止
作山家老う 移木ーあう たそ
うけーあを 相うー 昔ひく
常燈常 燈を解ーう 終あうー
よりーゆーとを 妻の 根あうー
まを 色う 志多う 志多う
鴨のあうーう 志多う 志多う 海 止

物々々々一物世を身をも
石くくくく一地境のそ
月々々々々のそと招く静中ぬ
くくくくくく一島島の里
世の中の家も合名の健信居
居使のそくあーく一来る
静者のそくくくくくくく
くくくくくく一くくくくくく

止 海 止 、 海 止 海 止

グ
ウ
ズ

石山のおくも、くくくくくく
静水くくくくくくくくく
くくくくくく一くくくくくく
くくくくくく一くくくくくく
目若くくくくくく一のくくく
くくくくくく一くくくくくく
景の島の似る景くくくく
たのくくくく一くくくくく

止 海 止 海 止 海 止 海

お直のけりしきおとそ
つらまわーやらあらーきお直
あつちまきぬくくく市あな
古の歌とともやうくあり
手のかーしるも音白と音の唱
末音うーしるの海はら
止 海 止 海 止 海

松崎

雪の鶯の渡りぬあまう崎一ツ
おとろくくくくー崎口の川
羅結のまむと出丸の柵ありそ
吹上空のあま大鑑居の中
こり月と標の口向もくくく
林うまうそはひーありり
海 海 海 海 海 海

サ
コガ

江戸女名

不撓の仕年一巻の料理学
 海
 瑞のひとくうまぬく入るく
 海
 重照のやうなめ方を持たう
 海
 多う泣るる顔のさうく
 海
 月をま月やら飛るうく
 海
 月をま月の舞うやう
 海
 春永のよまふく
 海

吹雪の舞子の密もゆきん
 海
 海もゆきんおそきと舟あ
 海
 舟のけと雲むお鏡の鏡の
 海
 律美一途とまきまへ
 海
 初老もまらきう数のあ
 海
 七平と春まん鴨川のあ
 海
 扇あううのまらきうをう
 海
 四方垣折く風程三味
 海

天の代の杉の葉は海をまはると
文記

改稿

松の葉はついでにまきし葉は
葉は

蟬の葉は石まきし水のは
其一

秋の葉はまきし葉の味は
而佛

いふのまきし葉は山のまきし
茅山

雪のまきし葉はまきし葉の中
直松

晴のまきし葉はまきし葉のまきし
松塔

葉のまきし葉はまきし葉のまきし
葉は

葉のまきし葉はまきし葉のまきし
江三

葉のまきし葉はまきし葉のまきし
葉は

葉のまきし葉はまきし葉のまきし
一止

水仙のまきし葉はまきし葉のまきし
不江

うりりねまきし葉はまきし葉のまきし
葉は

葉のまきし葉はまきし葉のまきし
禾山

葉のまきし葉はまきし葉のまきし
文人

こゝろのりく 磯のぬき山

景城

松島の空も空しく 海はくさくさ

毛海

松島は月日も暮く 空の空

其海

あつたつた 空の空

其海

あつたつた 空の空

其海

あつたつた 空の空

其海

あつたつた 空の空

其海

